



# 川東小だより

第10号  
平成31年2月15日  
新発田市立  
川東小学校

☆☆合い言葉は、「夢や目標」に向かってチャンス・チャレンジ・チェンジ です。☆☆

## 2020年への「チャンス・チャレンジ・チェンジ」

教頭 富田 一志

2020年は、東京オリンピック・パラリンピックの年です。教育現場にとっても大きな転換を迎える年です。同年は、「新学習指導要領の本格実施」の年です。

学習指導要領は、国が定めた教育課程に関する基準であり、幼稚園、小学校、中学校等、「学校」は学習指導要領を基準としながら、その地域の特色を生かした教育課程を実施することが求められます。

戦後、「試案」として示された学習指導要領は、当時の社会の有り様や教育課題の影響を受けつつ、およそ10年毎に改訂を受け、現在に至ります。ただ、2020年より施行される学習指導要領（新学習指導要領）で示された内容は、今までの改訂と比較しても、大きな転換となる「教育改革」になるだろうと私は考えています。

子どもたちが今後生きていく社会は、社会のグローバル化が進み、AI（人工知能）が進化し仕事のパートナーとなるような時代です。グローバルな「情報」を適切に扱うことが求められる「知識基盤社会」とであると指摘する人々もいます。

私たちは、学校教育を受け、多くの経験を積み成人していく中で、言い過ぎかもしれませんが「一様な価値観（comon sence）」を形成し、社会に出て「一様な価値観」のもとで暮らし働いてきたと考えられます。（日本的な、隣人との間柄や関係性を重視する価値観です。「付度」なども、こういった価値観の産物かもしれません。）

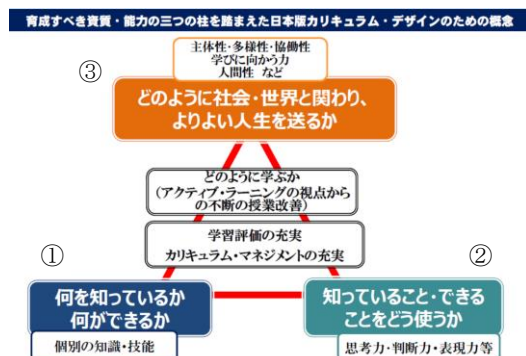
このような「日本的な価値観」は、私たちの先人たちが長い歴史の中で形成し、私たちの社会を成り立たせてきた大切な価値観であると考えます。このような価値観は、これからも私たちの「傍ら」で常に存在し続けるものであると思います。

でも、今後想定される「グローバル化の進んだ社会」では、例えば、共に働く隣人は外国の方かもしれません。テレビ会議やSNS等を活用し、世界の人々を相手に、適切な情報を獲得しつつ仕事や生活に生かす、そんな私たちの姿が想定されます。

そのような社会では、相手は「同じ教育課程」を歩んだ相手ばかりではありません。つまりは、「一様な価値観」だけで社会を成り立たせることが難しくなる可能性があります。多様な教育課程、文化風土をもとに育った、「多様な価値観」をもつ隣人とも、しっかりと対話し協働して物事をすすめることができる力（資質・能力）を、私たちは身に付けていく必要があります。

さて、新学習指導要領の作成は、大人である私たちが経験したことのないであろう「予測不可能な社会」を生

き抜いていかなければならない子どもたちに、どのような資質・能力を身に付けさせたいのかという議論からスタートしています。文部科学省のHPを手繰ると以下のような資料を見つけることができます。



※ 番号①～③は私が加えたものです。

資料では、①「何を知っているか・何ができるか」という知識・技能を重視する教育から更に進めて、②「知っていることを活用し」、多様な他者と協働しながら③『社会』と繋がり、よりよい人生を送ること」までを子どもに身に付けさせたい資質・能力としています。

今後の学校は、地域の特色を生かし、社会と繋がった教育課程を『創造』することで、①「何を知り」②「どう使い」そして③「いかにによりよく生きるか」までの資質・能力をバランスよく育むことが求められます。また、そのような教育課程をデザインするためには、**地域と目標を共有し**、地域総出で子どもを育てていくという新しい学校の在り方が必要となってきます。

学校が、このように「主体的に教育課程をデザインする」役割を担ったことは今までなかったと考えます。それ故の「教育改革」です。私自身は「大変だ」というより「ワクワク」しています。

楽観的かも知れませんが、「与えられたことを勉強するだけでなく、自分がやってみたいことに挑戦し、いろいろな人が相手でもコミュニケーションをとり仲よく仕事をし、家庭人として、地域人として、日本人として、そして世界人として自分らしい夢や目標を追求し、たくましく生きていく」そんな力を身に付けた川東っ子たちを想像すると「ワクワク」します。

2020年の改定に向け、皆さんの考えを頂戴しながら、主体的で対話的な教師として自身の研鑽を深め続けていかなければならないと思う今日この頃です。

